

アカンな」と腹をくくり、造り酒屋の仕事に進進まゐしんすることになったのです。私が末っ子の3人兄弟。上の兄二人は好き勝手にやっているように見えますが、長兄は建築関係を専攻しコンサルタントをしていて、実家の酒造会社にも国の補助金や助成金といった制度的な情報などのアドバイスでバックアップしてくれます。蔵之介兄は、テレビなどにゲスト

が戻るまで、留守番するつもりでした。会社に入り約10年、私も30代半ばになったとき、「兄貴も順調に俳優をやっているし、こりゃと怒り心頭で、その場を収めるには、泣き叫ぶ両親の横で私が「俺が継いだらええのやな」と言うしかなかったです。実際、「いつか兄が俳優やめて酒造りに戻ってくるはず」とも思い、兄が戻るまで、留守番するつもりでした。父は「俺は演劇の道に進む」と言い出し、「晃、(実家の酒造り)継いでくれるか」と。父ではなく、蔵之介兄に言われました。父は3代目社長の勝也さん(86)は「俺を裏切って…」と怒り心頭で、その場を収めるには、泣き叫ぶ両親の横で私が「俺が継いだらええのやな」と言うしかなかったです。実際、「いつか兄が俳優やめて酒造りに戻ってくるはず」とも思い、兄が戻るまで、留守番するつもりでした。

●兄の佐々木蔵之介が継ぐはずだった酒造りの道へ

講演

京都洛中のお酒造りと食文化

佐々木酒造株式会社 代表取締役 佐々木 晃



5月11日に開かれた「第626回おつぎ文化講座」から要旨を採録しました。



佐々木晃 (ささき あきら)

昭和45(1970)年、京都市生まれ。平成4(1992)年、佛教大学文学部中国文学科卒業。京滋日立株式会社(現:関西日立)を経て、平成6年春に家業の佐々木酒造株式会社入社。営業職などを経て、平成22(2010)年5月から4代目の社長に就任。京都酒造組合副理事長。